大学院心理学研究科（修士課程）学位論文に係る評価に当たっての基準
臨床心理学専攻、犯罪心理学専攻

当該研究領域における修士としての十分な知識を習得し、問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けていること。

具体的には次の６つの項目を基準とし、それぞれ「たいへん優れている（18 点)」、「優れている（15 点)」、「標準（12 点)」、「あまり優れていない（9 点)」、「優れていない（6 点)」の５段階で評価し、そのうえで総合的に判断して評価します。

(1) 研究テーマの適切性

研究テーマの設定が申請された学位に対して妥当であり、論文作成にあたっての問題意識が明確であるか。

(2) 研究テーマに関する先行研究レビューの適切性

研究テーマに関する先行研究を調査し、いかなる点が論点となっているのかを的確に把握しているか。

(3) 研究方法の適切性

記述が結論に至るまで内容的に首尾一貫しているか、さらに、そこにおける研究方法が適切であり、的確な分析・考察がなされているか。

(4) 研究内容の独自性

当該研究領域の理論的・実証的な見地から見て、論文が独自の価値を有するものとなっているか。

(5) 論文の形式・体裁の適切性

論文の記述（本文、図表、引用、引用・参考文献など）が十分かつ適切であり、本論の構成が首尾一貫しているか。

(6) 特記事項

その他、特記に値する事項があるか。その場合には、特記事項をコメントし、最大 10 点の得点を与える。